

## 人と防災未来センター 平成 30 年度事業評価

\* 評価基準（4段階評価）

{	S : 大変評価できる	}
	A : 評価できる	
	B : あまり評価できない	
	F : 評価できない	

評価単位	評定	委員コメント
展示	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間50万人の来館者が続いているが、来館者の数だけでなく、これを維持するためにセンターは各種の努力を行っている。</li> <li>・ 外国からの来館者への各種の配慮も評価できる。</li> <li>・ 次世代を担う若者への目配りも評価しうる。</li> <li>・ 津波避難体験コーナーも有意義であるが、さらなる工夫も期待される。</li> </ul>
資料収集・保存	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収集資料による企画展やスポット展示など収集資料を活用する試みが行われており、資料収集の意義を高めている。</li> <li>・ 収集のみならず保存も重要な使命であるが、保存に伴う劣化防止にも配慮されている。</li> <li>・ 今年度は震災の25周年であることから資料の増大が期待されるが、そのための収容能力やその他の対策が望まれる。</li> </ul>
実践的な防災研究と若手防災専門家の育成／災害対応の現地支援・現地調査	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災の専門家の育成には、大学などと違って各種の実際の災害からの知見を得る機会があることは意義深い。</li> <li>・ 中核的研究プロジェクトを導入した意義は大きく、今後の4年間の目標も明確化しており、実現が期待される。</li> <li>・ 被災地での支援に際しては、所員による地元のリサーチフェローや関係機関との連携を通じて被災自治体への支援を行っている。</li> </ul>
災害対策専門職員の育成	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自治体の首長と中核的人材を対象とした災害対応能力の向上を目指す事業は先見性を有する点において高く評価されている。内閣府での同様な事業を引き出すなど、他の機関への影響も重要である。</li> <li>・ 事業の内容においてもマンネリ化することなく高度化を進めている。</li> </ul>
交流ネットワーク	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流ネットワークは基本的には人と人のネットワークの構築を基本としているが、従来の延長上に止まっており、特に目新しいものが見られない。</li> <li>・ この項目については中期計画の再検討が望まれる。</li> </ul>